

老化研究支援・推進に関する研究開発

(南 康博/神戸大学、鈴木 聡・篠原 正和・森岡 裕香/神戸大学、尾池 雄一/熊本大学、一條 秀憲・野田 翔子/東京大学、豊國 伸哉/名古屋大学、岡田 康志/理化学研究所、谷田 以誠/順天堂大学、高橋 智/筑波大学、久保田 浩行/九州大学)

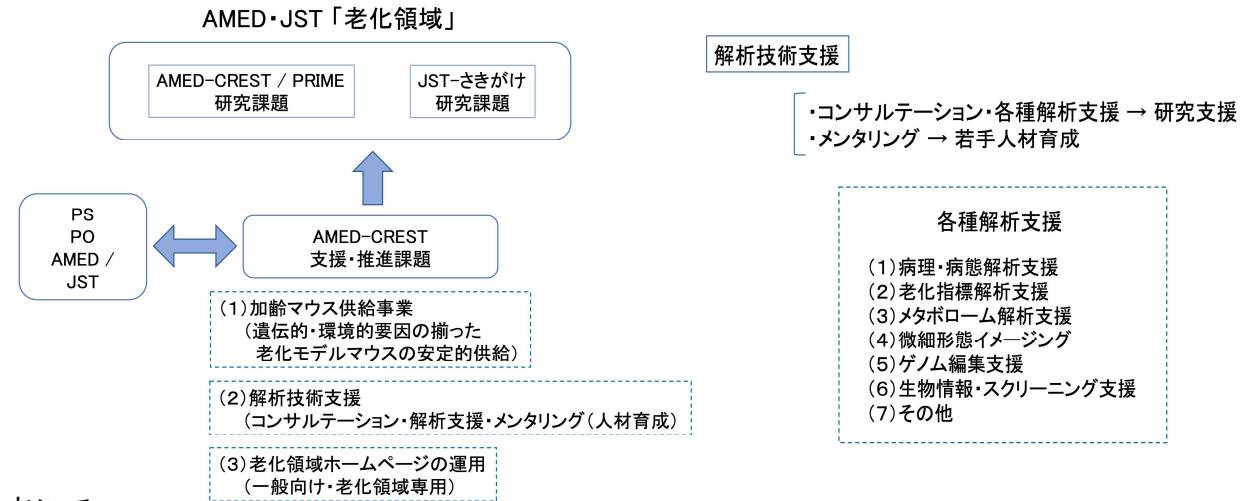
背景

超高齢社会を迎えた我が国をはじめ、国際的に高齢化が進み、平均寿命と健康寿命の乖離が拡大しており、健康寿命の延伸が喫緊の課題となっている。そこで加齢に伴う変化の機構を多階層にわたりシームレスに理解し、それを踏まえた加齢性疾患の予防・診断・治療へ展開することがもてめられている本老化領域では、それぞれ独自の視点・アプローチにより老化メカニズムの解明を目指す多様かつ質の高い研究開発課題から構成されており、個々の研究を推進するとともに、有機的連携による共同研究を円滑・効率的に推進することにより、老化機構の理解を深め、ブレークスルーをもたらすことが期待される。そこで、支援・推進課題は老化領域の個別研究や連携・共同研究を強力に支援するとともに、今後の老化研究を担う若手人材を育成する。

目的方法

支援・推進課題では、AMED-CREST/PRIME、JST-さきがけ「老化」の採択課題による老化研究の支援・推進を目的として、老化研究に必要な不可欠な標準化された加齢マウス(B6J・B6N系統、♂・♀、単飼・群飼)の安定供給を行うとともに、老化研究に必要なかつ有用な解析技術支援を原則 共同研究として行い、老化領域における個々の研究を支援・推進する。また、老化領域において秘密保持に留意した上で、風通しの良いオープンな学術交流や情報交換等を行う場としての老化領域ホームページ(老化領域専用サイト)を運用するとともに、一般向けサイトを通して、老化領域の活動等を積極的に外部に発信する(左図)。

また、支援・推進課題は、老化研究や関連研究領域において独自の優れた解析技術や豊富な研究実績を有するメンバーから構成されており、多面的解析技術支援を行うことが可能であり、老化領域における個別研究開発課題に対して、ニーズに則した解析技術の提供に加え、研究計画立案の段階からのコンサルテーションや各研究開発課題の若手研究者へのメンタリングを実施する体制を有しており、老化研究の将来を担う若手人材の育成にも貢献できる体制となっている(右図)。



基礎的到達

老化領域における個別研究開発課題に対して、それぞれの研究目的・計画を踏まえて、標準化された(遺伝的背景・環境的要因等が揃った)加齢マウスを安定的に供給する。また、各研究開発課題が必要とする解析を担当し、その解析結果の提供を通して成果発表に貢献するとともに、若手研究者への解析技術の指導(実技)・ノウハウの提供をはじめとするメンタリングを行い、若手人材育成に貢献する。さらに、本老化領域における学術交流や情報交換等を行う場としてのホームページの運用や利活用の促進を行い、今後の本邦における老化研究・全ライフコース研究などの研究プロジェクトの円滑・効率的なロールモデルを構築する。

医療への展開

現時点では、支援・推進課題としては具体的な医療への展開は計画していない。